

【薬学部 臨床薬剤学講座】薬学部 6 回生 田中 千都 さんが  
筆頭著者の論文が *Journal of Clinical Medicine* 誌に掲載されました。

新規子宮体がん免疫療法の開発に貢献できる可能性！

本学薬学部 6 回生 田中 千都 さん（臨床薬剤学講座 所属）が筆頭著者として執筆した論文（英文）が、国際的学術雑誌 *Journal of Clinical Medicine* 誌（Impact Factor 4.242）に掲載されました。田中 千都 さんは、筆頭著者として 2 報目の論文掲載を達成しました。

本研究において 田中 千都 さんは、ヒト子宮体がん細胞膜上における免疫チェックポイント分子 Programmed Death Ligand-1 (PD-L1) の発現レベルが、細胞内の“足場”タンパク質 Ezrin によって制御されることを明らかにしました。本研究成果により、PD-L1 の足場タンパク質 Ezrin を治療標的とすることで、進行または再発性子宮体がんに対する新規がん免疫療法の開発に貢献できる可能性を提唱しました。

なお、本研究は本学薬学部 臨床薬剤学講座、天然薬物学講座及びのぶまさクリニック（京都市）の共同研究によるものです。

田中 千都 さんのコメント：

『今回は 2 報目の論文執筆となりましたが、前回同様、何度も修正を繰り返しながら、なんとか完成させることができました。特に苦戦したのは、文章全体の起承転結を意識しながら読者の興味・関心を惹きつける文章を執筆することでした。共著者の先生方や仲間と相談しながら完成させた論文を世界へ向けて発信することができ、とても嬉しく思っています。』

【掲載論文の情報】

雑誌名：*Journal of Clinical Medicine* 2022, 11(8), 2226 <https://www.mdpi.com/2077-0383/11/8/2226>

タイトル：

Ezrin Regulates the Cell Surface Localization of PD-L1 in HEC-151 Cells.

著者：

**Chihiro Tanaka**<sup>1</sup>, Takuro Kobori<sup>1</sup>, Rie Okada<sup>1</sup>, Rina Doukuni<sup>1</sup>, Mayuka Tameishi<sup>1</sup>, Yoko Urashima<sup>1</sup>, Takuya Ito<sup>2</sup>, Nobumasa Takagaki<sup>3</sup>, Tokio Obata<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Laboratory of Clinical Pharmaceutics, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, 584-8540, Japan

<sup>2</sup> Laboratory of Natural Medicines, Faculty of Pharmacy, Osaka Ohtani University, Tondabayashi, 584-8540, Japan

<sup>3</sup> Nobumasa Clinic, Kyoto, 601-8041, Japan

問い合わせ先（研究に関すること）：

薬学部 臨床薬剤学講座 准教授 小畑 友紀雄

E-mail: [obatatoki@osaka-ohtani.ac.jp](mailto:obatatoki@osaka-ohtani.ac.jp)